

令和6年度
北陸地方整備局 総合評価審査委員会

令和6年度 実施結果

工事関係	P 1 ~ P 1 3
業務関係	P 1 4 ~ P 1 7
各部会等実施状況	P 1 8 ~ P 1 9

令和7年2月27日
北陸地方整備局

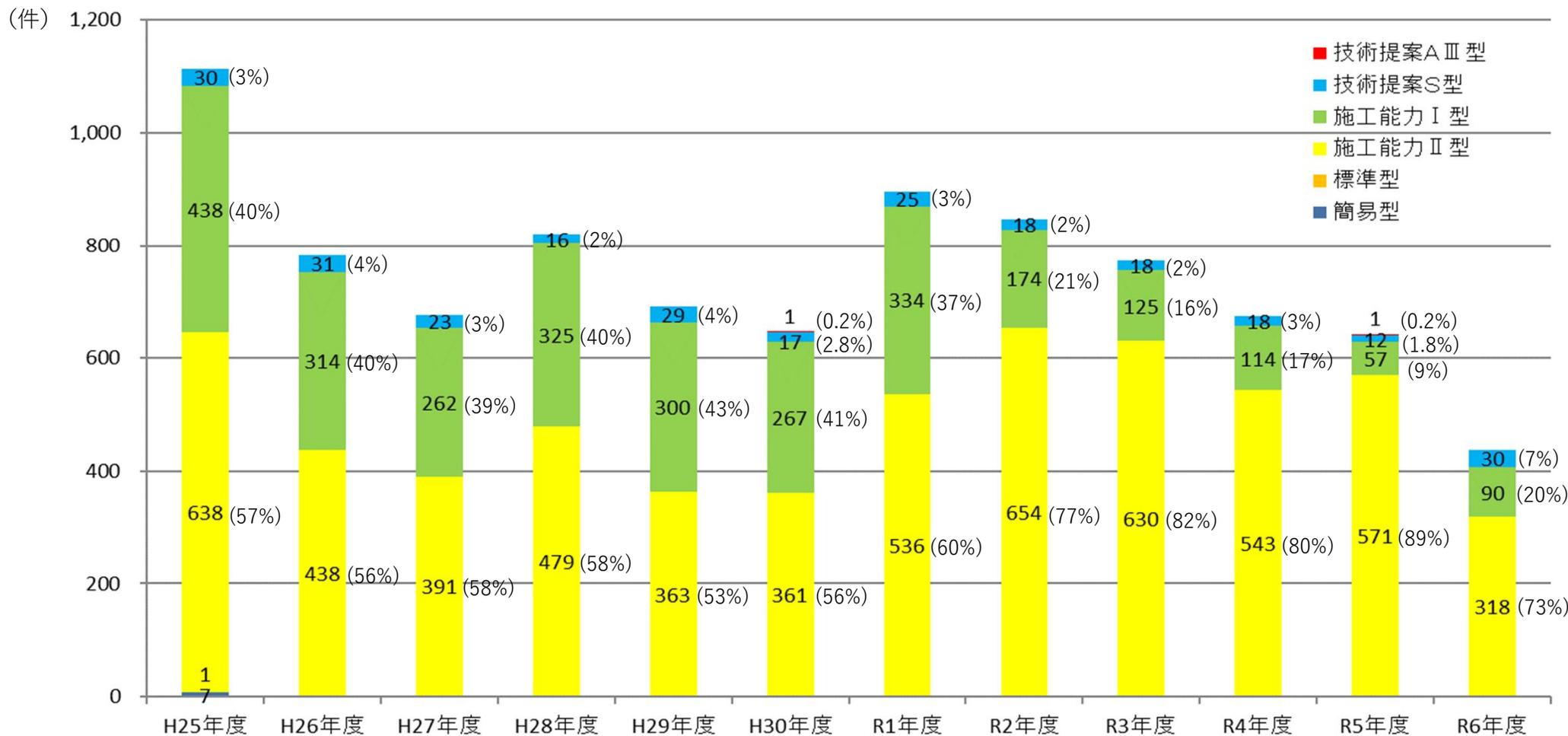
公共工事の品質確保の促進に関する法律
の一部を改正する法律（H26.6.4）

公共工事の入札契約方式の適用に
関するガイドライン（H27.5月）

施工能力・技術提案（2極化）

目標

実施率 (96.2%) (97.5%) (99.0%) (99.4%) (99.3%) (99.1%) (99.9%) (99.4%) (99.5%) (99.7%) (99.5%) (98.9%)



※件数は、建設及び港湾空港関係。 随意契約を除く。
R6年度は、令和6年4月～令和6年12月末までの契約件数。

落札者の傾向（得点と価格） 施工能力評価型 I 型

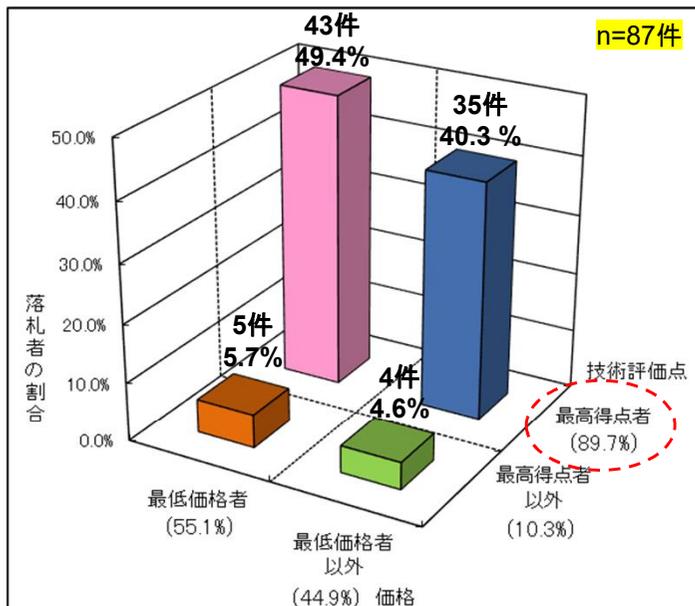
【工事関係】

- R 6 の施工能力評価型 I 型においては、**技術評価点の最高得点者の落札が約 8 割の者が落札している。**
- R 4 は、技術評価点が最高かつ最低価格者の落札者の割合が約 6 割であり、技術評価点に差がつきにくい傾向であったが、R 5 からは、減少傾向である。

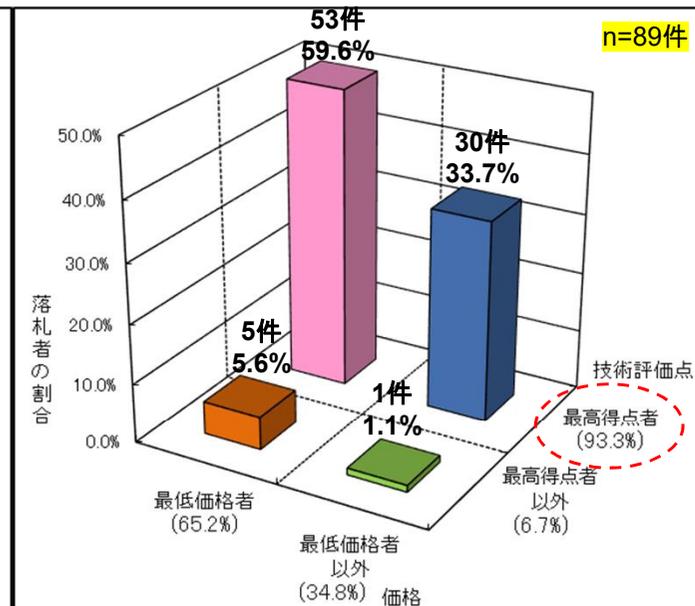
施工能力評価型 I 型

令和3年度

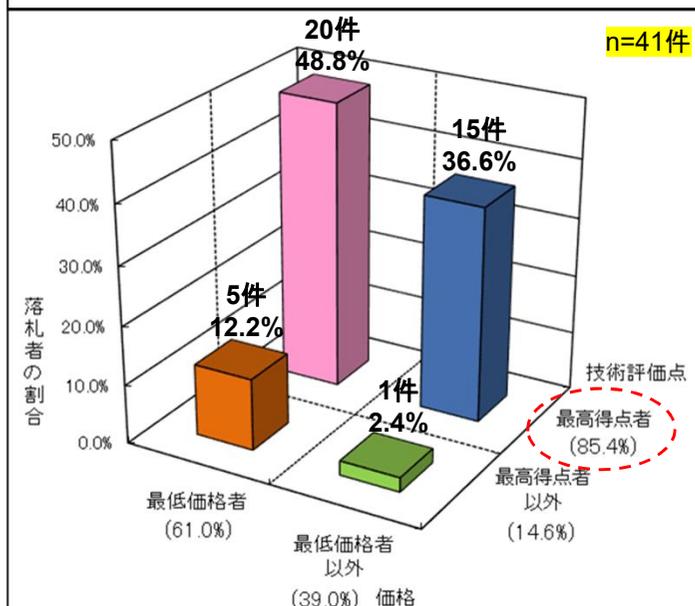
- 技術評価点が最高で最低価格者
- 技術評価点が最高で最低価格者以外
- 技術評価点が最高以外で最低価格者
- 技術評価点が最高以外で最低価格者以外



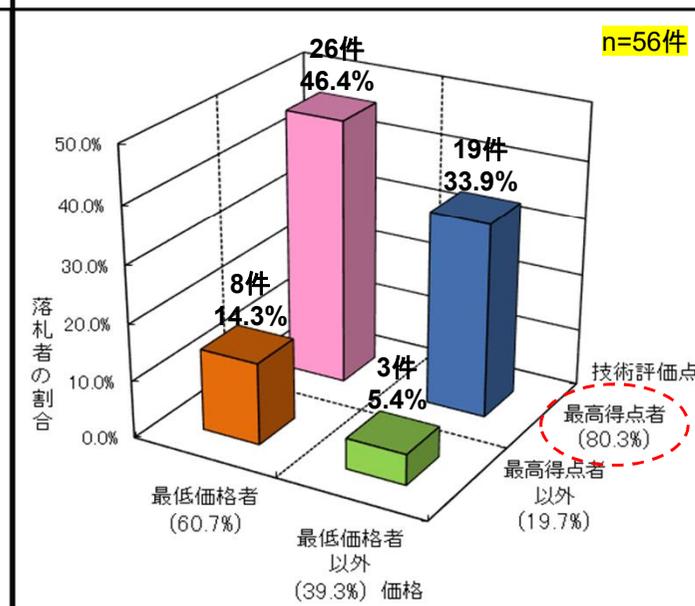
令和4年度



令和5年度



令和6年度

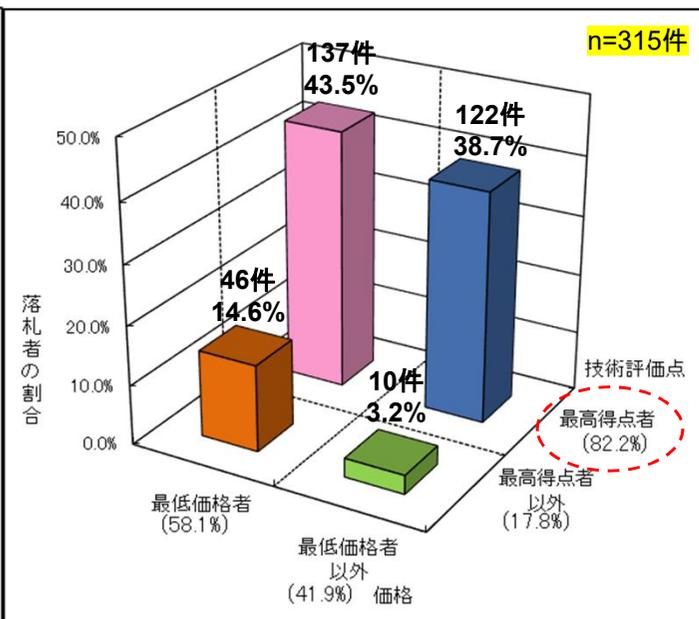
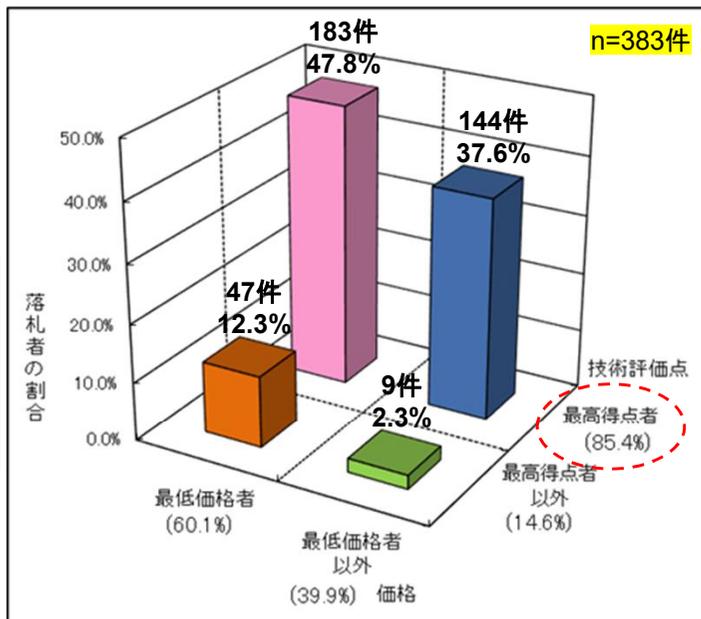


○R6の施工能力評価型Ⅱ型においては、**最高得点者の落札が約8割**となっており、おおむね横ばいの傾向となっている。

施工能力評価型Ⅱ型

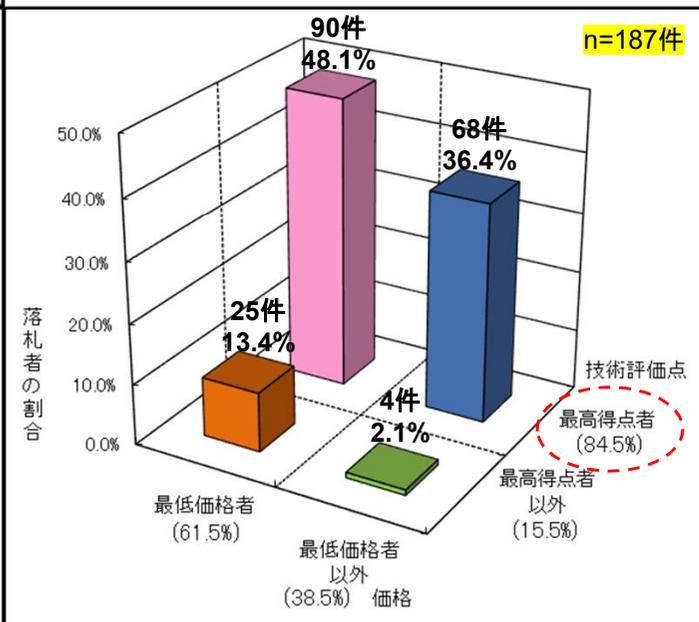
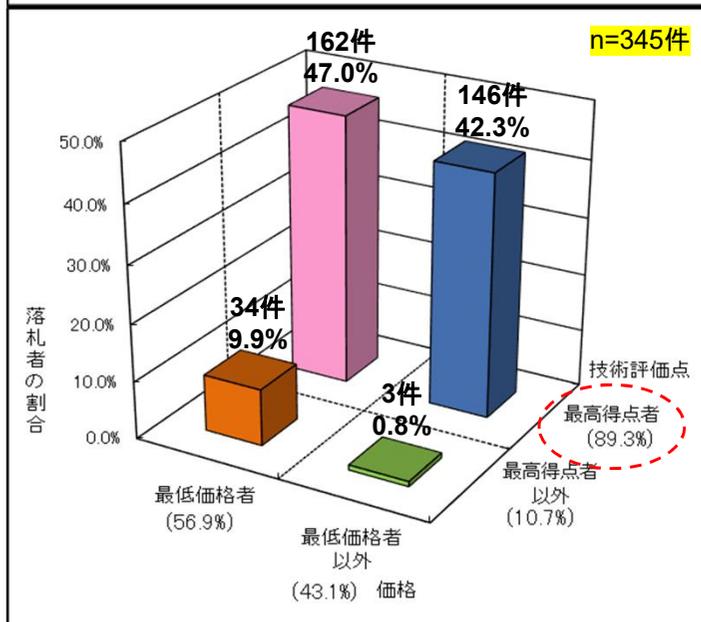
令和3年度

- 技術評価点が最高で最低価格者
- 技術評価点が最高で最低価格者以外
- 技術評価点が最高以外で最低価格者
- 技術評価点が最高以外で最低価格者以外



令和4年度

令和5年度

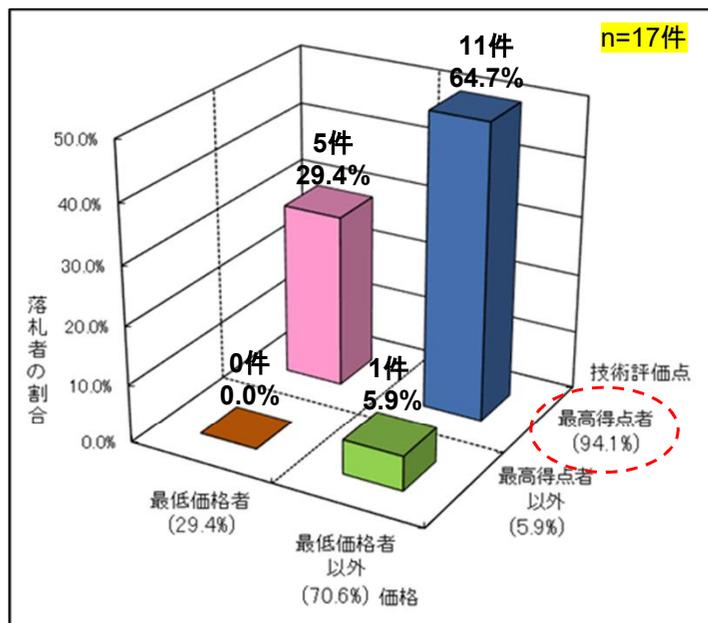


令和6年度

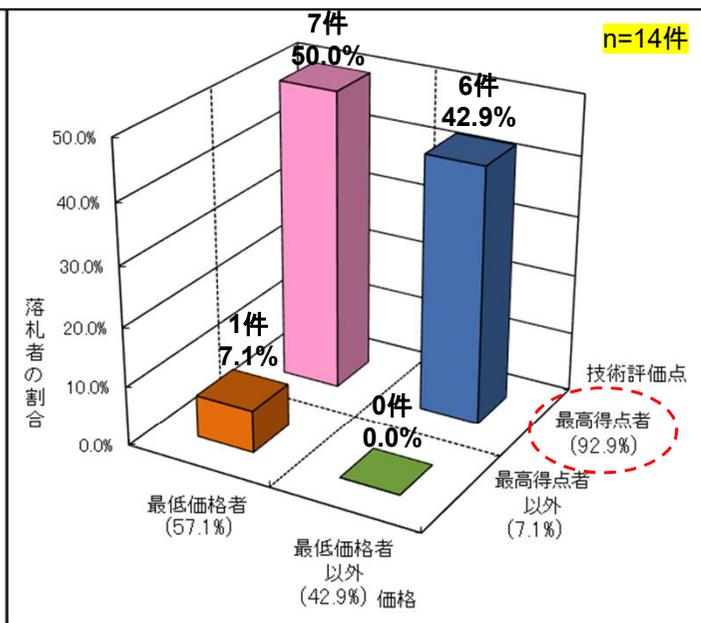
○ 技術提案評価型 S 型は工事技術的難易度が高く、技術提案の配点が高いことから、R 3 以降、技術評価点の最高得点者の落札が約 9 割以上の者が落札し、技術提案で高い評価を受けた者が受注する傾向。

技術提案評価型 S 型

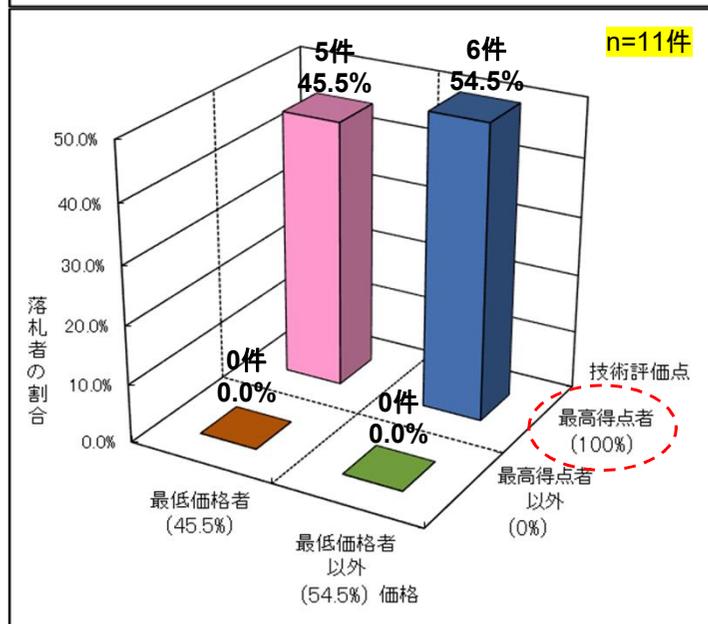
令和3年度



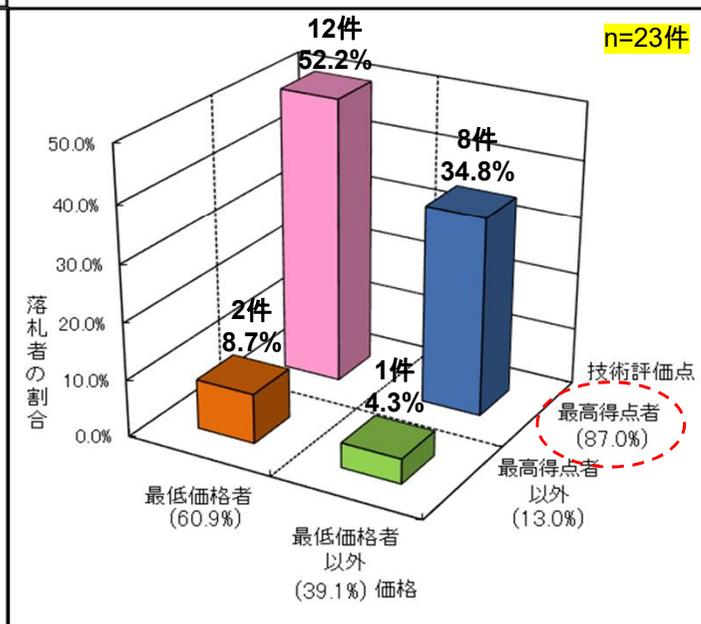
令和4年度



令和5年度



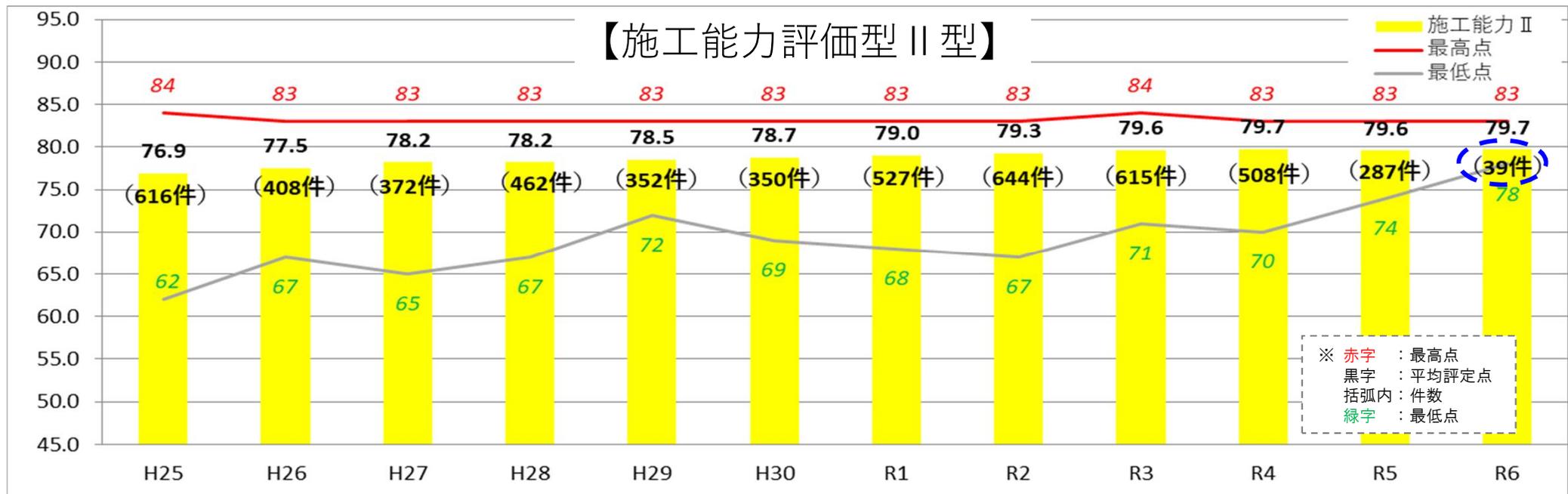
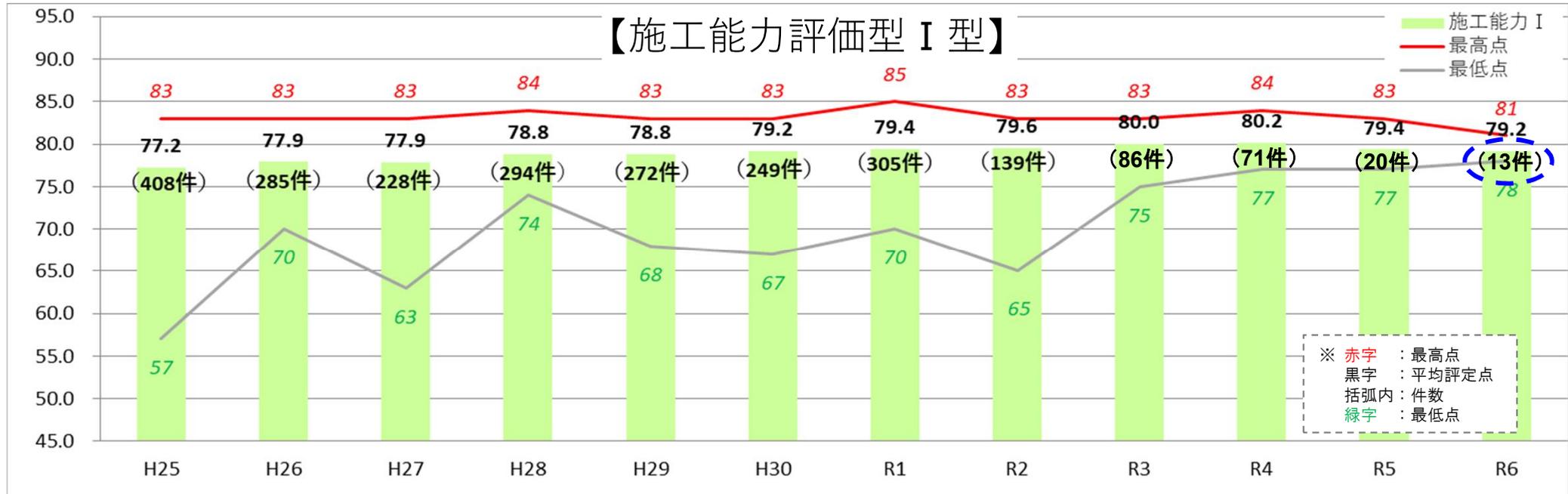
令和6年度



総合評価落札方式における工事成績評定点の推移

【工事関係】

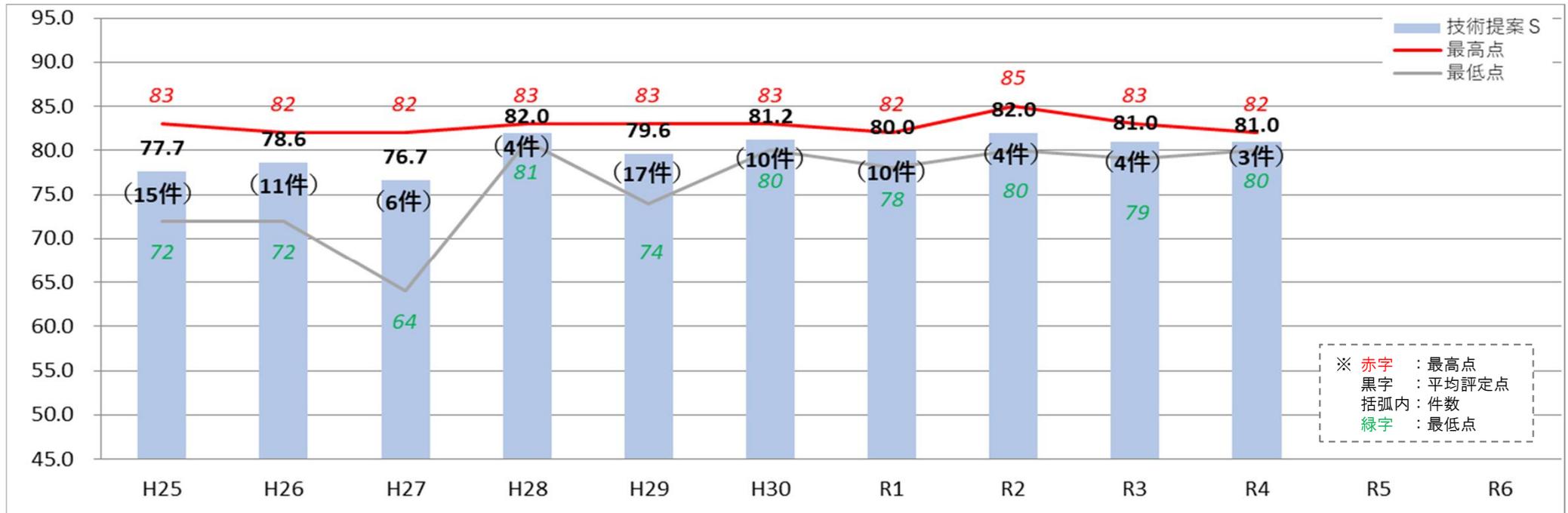
○ I型でもII型でも工事成績平均点は安定傾向である。ただし、最低点が上昇しており、最高点と最低点の差が縮まる傾向にあり、平均的な工事の成績は上がっていることが推測できる。



※発注年度ベース：平成25～令和6年度（R6. 12. 31現在）、工事成績：最終請負金額：500万円以上（税込み）、港湾空港関係除く

- S型は工事成績平均点が安定傾向であり、最高点と最低点の差が縮まる傾向にある。
- 近年件数は少なくなっているが、工事技術的難易度が高く、技術提案の配点も高いことから、より優秀な者が受注し品質確保・向上に寄与しているため、工事成績の平均点が80点を超える傾向が見られる。

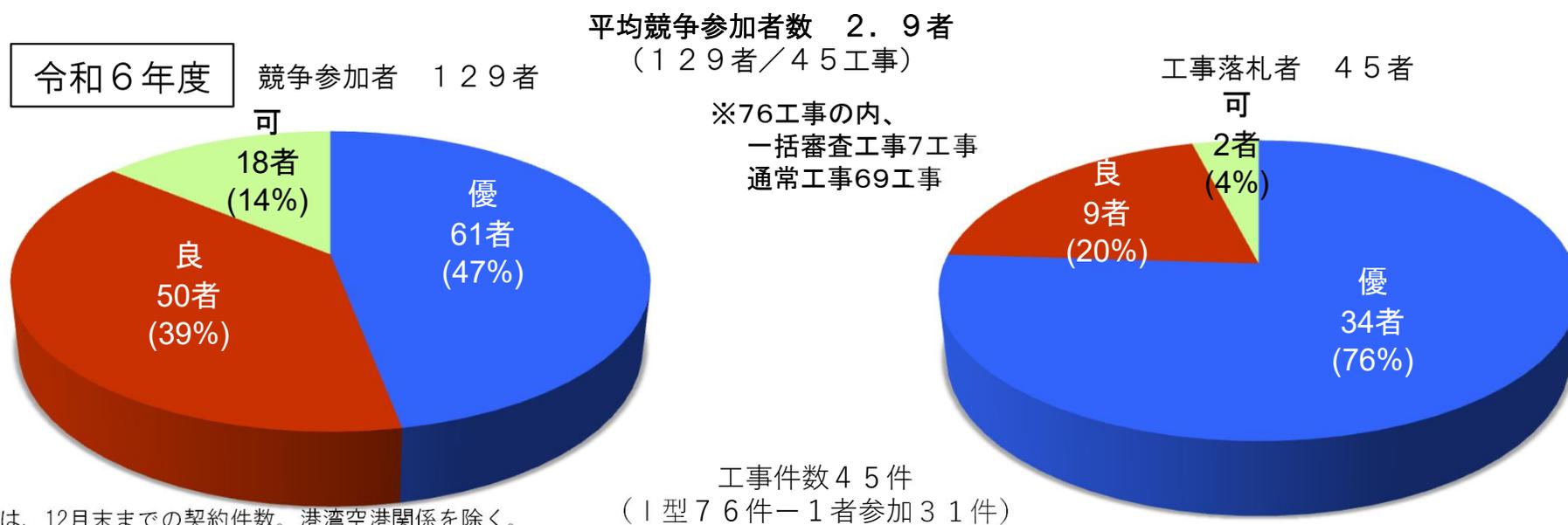
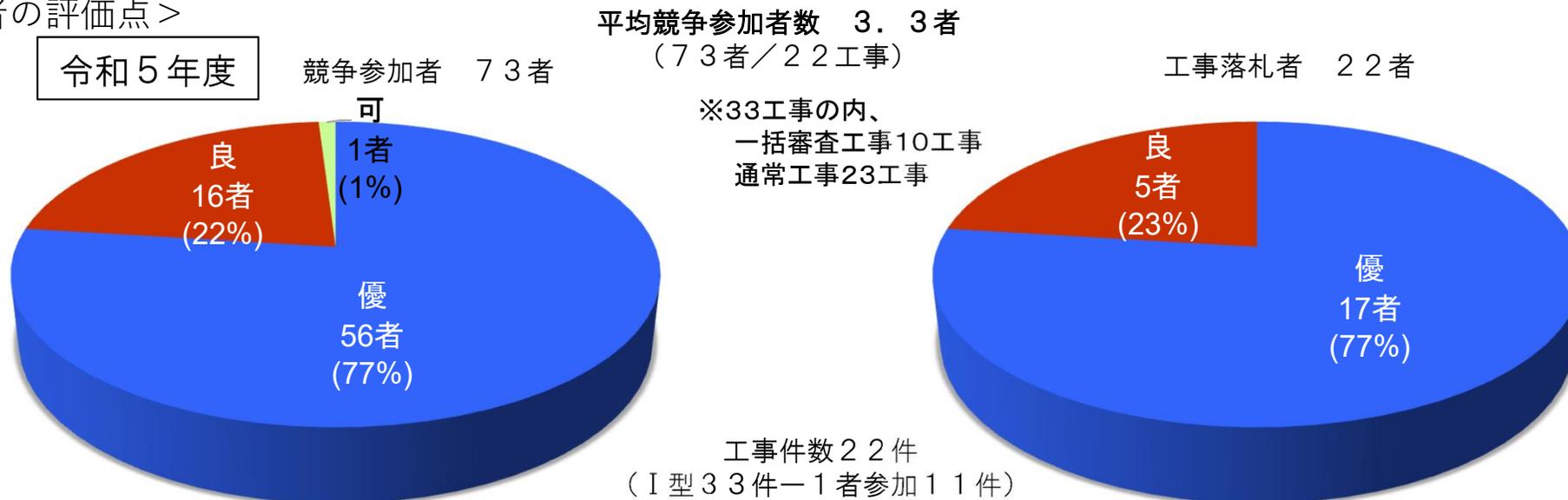
【技術提案評価型S型】



※発注年度ベース：平成25～令和6年度（R6. 12. 31現在）、工事成績：最終請負金額：500万円以上（税込み）、港湾空港関係除く

- 令和5年度はコロナ禍における入札手続き書類の簡素化の観点から、一部を除き施工能力評価II型で発注したため、施工能力評価型I型の発注件数は少なかった。
- 令和6年度は、総合評価タイプ選定フローによりタイプを選定することとしたため、施工能力評価I型の発注件数が増え、施工計画の評価結果にバラツキが出るようになった。

<参加者の評価点>



※令和6年度は、12月末までの契約件数。港湾空港関係を除く。

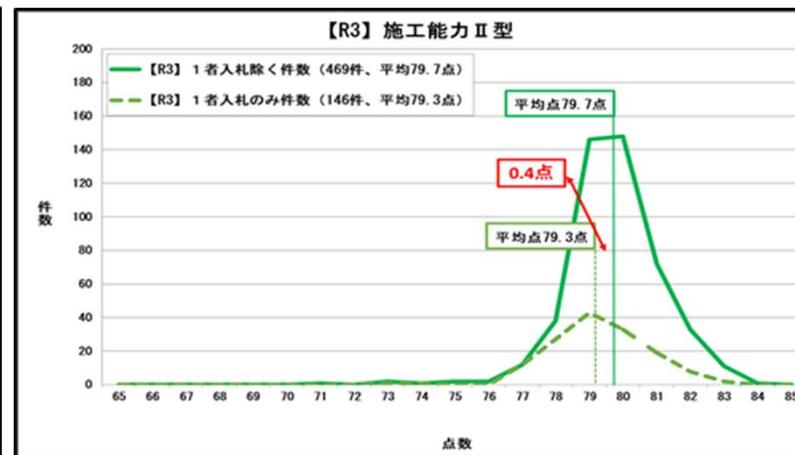
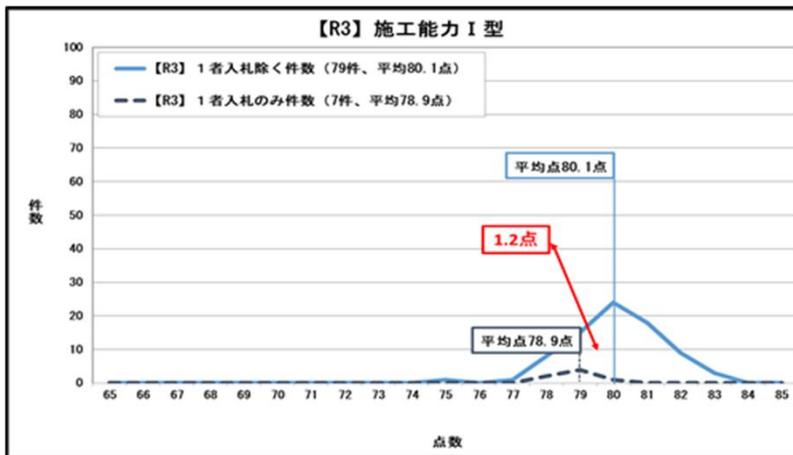
- 各総合評価における工事成績平均点について、複数者入札と1者入札による工事成績平均点を比較した。
- 工事成績平均点については、ほぼ差がなく、工事品質に影響はない。

年度	総合評価落札方式	通常集計		複数者入札		1者入札のみ		平均値の差
		件数	平均点	件数	平均点	件数	平均点	
R3	施工能力I型	86	80.0	79	80.1	7	78.9	1.2
	施工能力II型	615	79.6	469	79.7	146	79.3	0.4
	技術提案S型	4	81.0	4	81.0	0	0	-
R4	施工能力I型	71	80.2	58	80.2	13	80.2	0
	施工能力II型	508	79.7	300	79.8	208	79.6	0.2
	技術提案S型	3	81.0	2	81.5	1	80.0	1.5
R5	施工能力I型	20	79.4	13	79.4	7	79.3	0.1
	施工能力II型	287	79.6	172	79.5	115	79.6	0.1
	技術提案S型	0	0	0	0	0	0	-

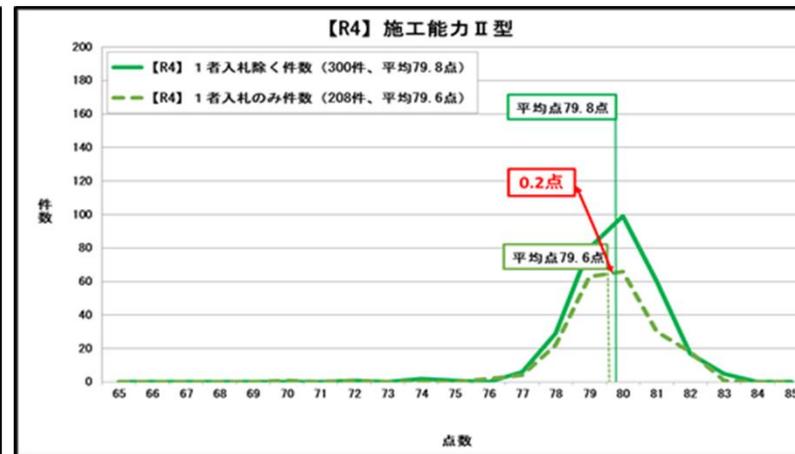
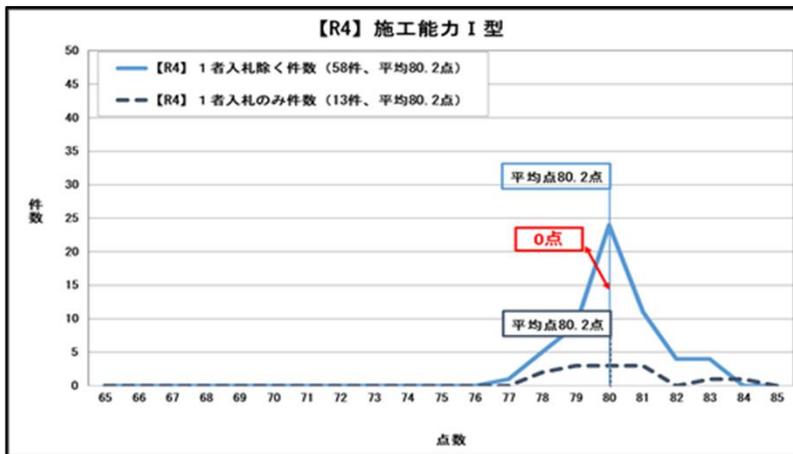
※発注年度ベース：令和3～令和5年度（R6.12.31現在）、工事成績：最終請負金額：500万円以上（税込み）、港湾空港関係除く

複数入札と1者入札の件数及び点数の状況

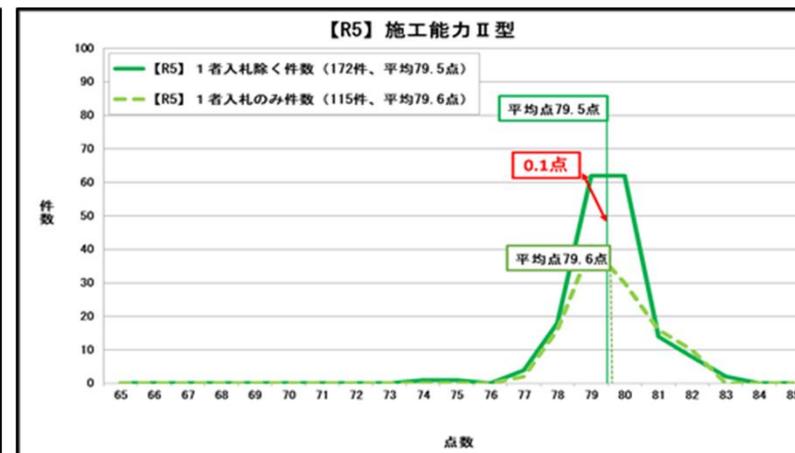
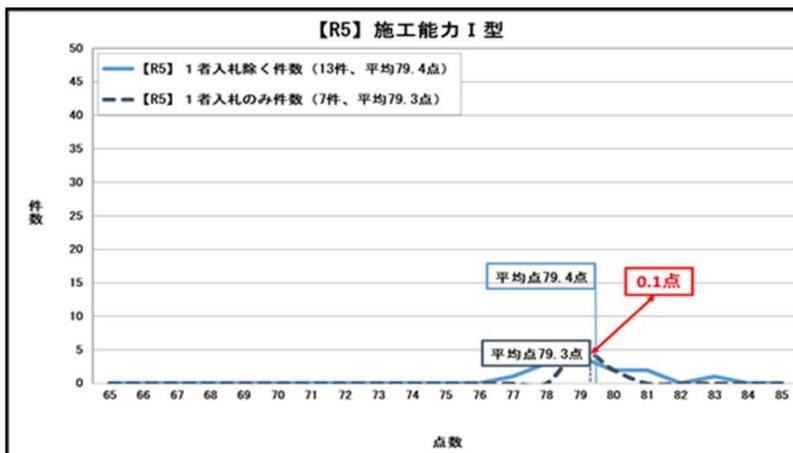
【R3】



【R4】

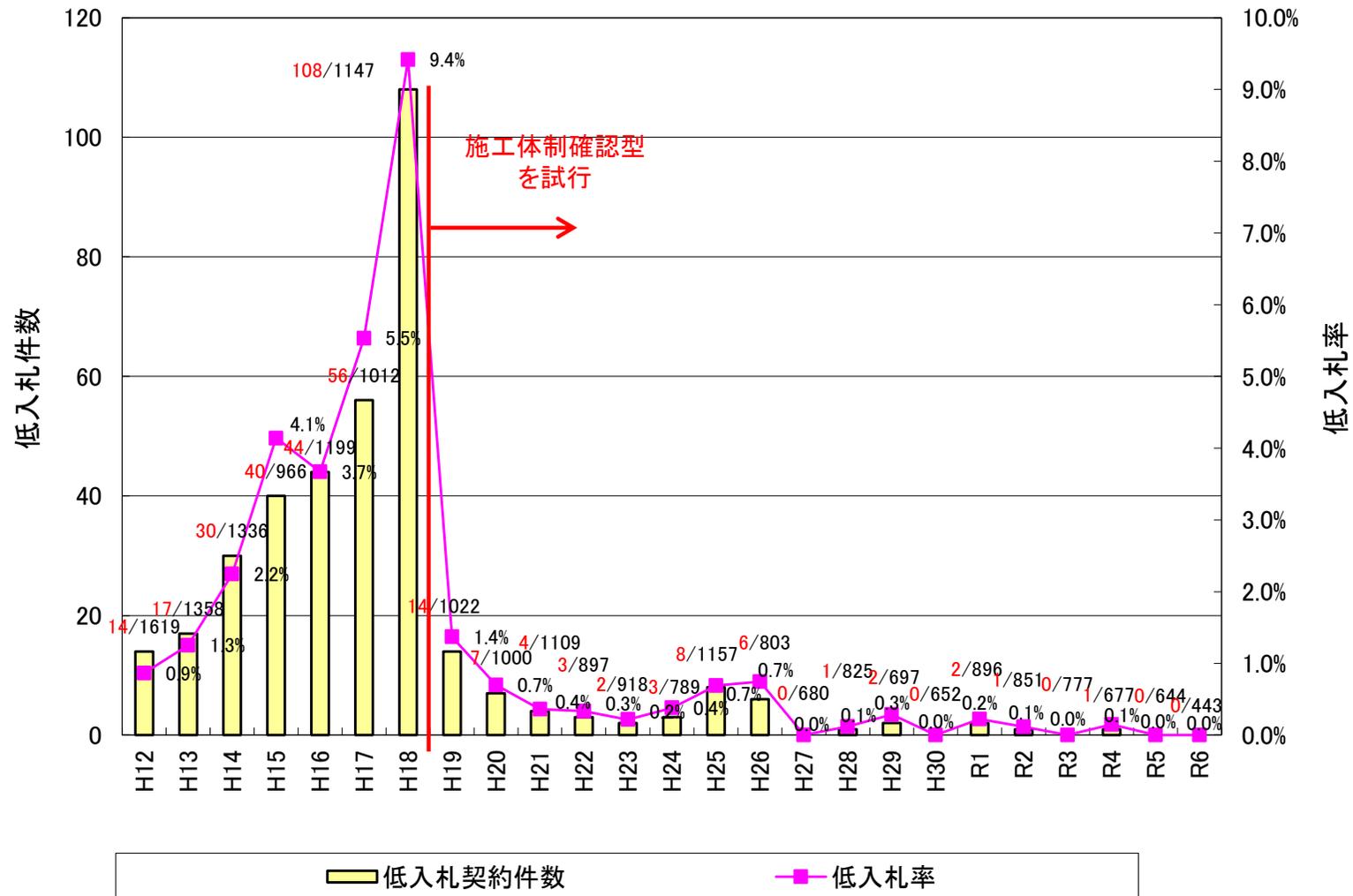


【R5】



○ 低入札との契約は、施工体制確認型を試行で実施した平成18年12月以降は激減しており、近年では、R4に1件発生した後は、R5・R6ともに0件であり、施工体制確認型の導入が低入札防止に寄与している状況。

北陸地方整備局 年度別低入札件数

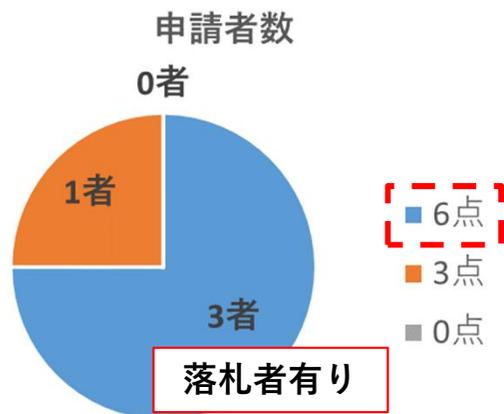


※件数は、建設及び港湾空港関係。 随意契約を除く。
令和6年度は、令和6年4月～12月末までの速報値。

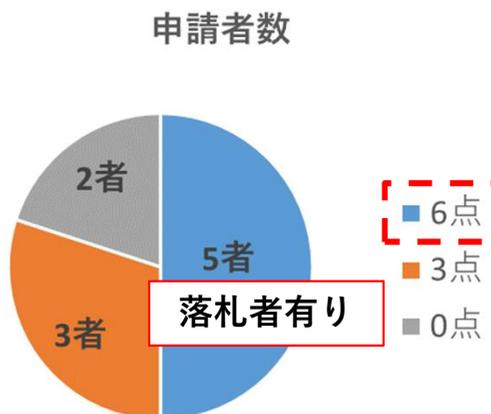
- R 6 新規の受注機会促進型について、3件の実施結果を示す。
- 受注機会促進型とは、当該年度の手持ち工事量を評価することで受注機会の促進を促す方式であり、3件全てにおいて最大加点6点（公告日において契約中の北陸地方整備局発注*の一般土木工事の受注件数が、3件未満）の者が、受注機会を得ている。

※港湾空港関係事務に関するものを除く。

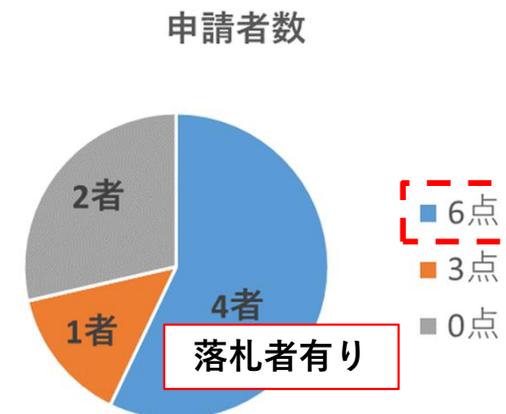
A 工事



B 工事



C 工事



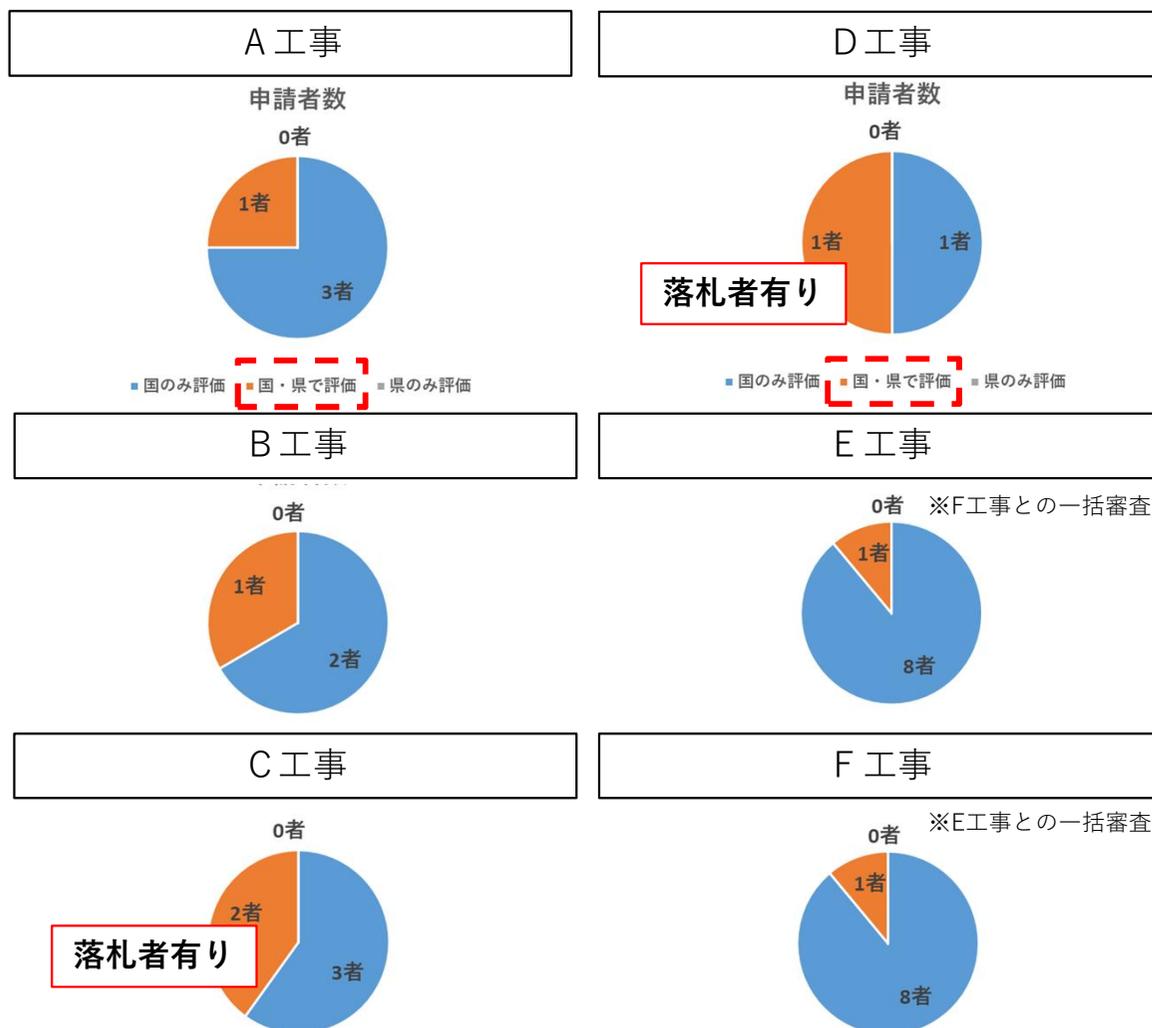
受注機会促進型とは

当該年度の手持ち工事量を評価することで、**受注機会の拡大を促す方式**であり、企業の能力等における優良工事表彰等の固有企業に与えられる加点を、手持ち工事量の評価に代えることにより受注機会の拡大を促し、受注機会が得られないことより**表彰を受ける機会が得られない課題の解決**をはかる。

手持ち工事量の評価（企業の施工能力）

評価内容	評価基準	加算点
公告日において契約中の北陸地方整備局	6件以上	0点
発注の一般土木工事の受注件数を評価する。	3件以上～6件未満	3点
	3件未満	6点

- 自治体実績評価型について、新潟県内 6 件の実施結果を示す。
- 自治体実績評価型とは、国の評価の他に、地方自治体（県）の工事成績評定点や優良工事表彰を評価する方式であり、6 件全てで「国・県で評価」する者が一定数おり、2 件の工事では「国・県で評価」している者が受注している。また、「県のみ評価」している者はいなかった。
- 県の評価を採用した実績が最も多いのは、配置予定技術者の施工能力の工事成績。また、企業の施工能力の工事成績は、県の評価を採用した者はない。



自治体実績評価型とは

入札参加者が少ないことから、競争性を高め、一層の品質確保・向上を図るため、地方自治体（県）の工事成績評定点や優良工事表彰を評価する試行である。

企業の施工能力	
工事成績	国又は県
優良工事表彰・安全管理優良請負者表彰	国又は県

配置予定技術者の施工能力	
工事成績	国又は県
優良工事技術者表彰等	国又は県

企業の施工能力
工事成績
県の評価なし

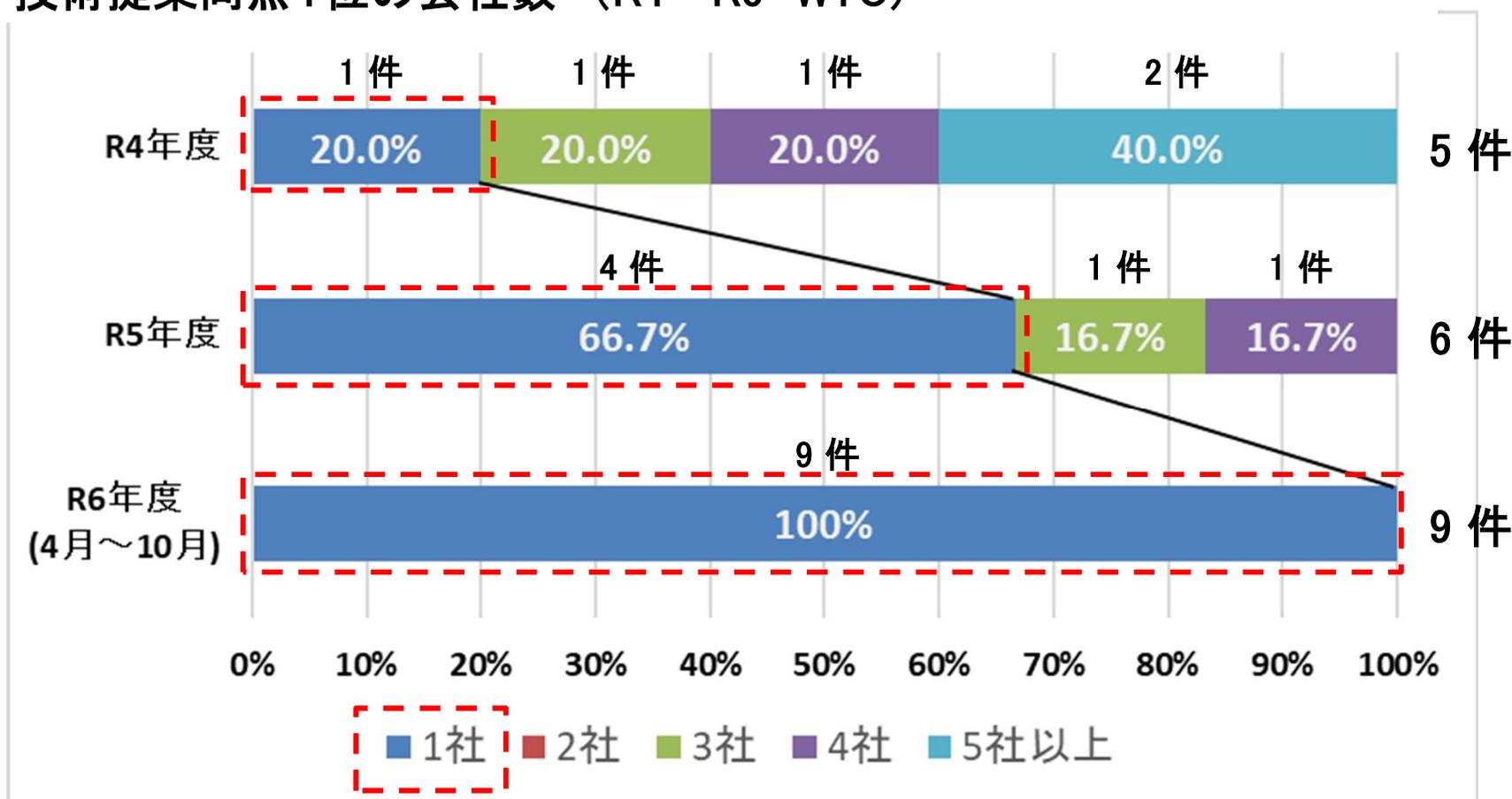
申請者32者の評価実績	
国 32者	県 0者
国 30者	県 2者

申請者32者の評価実績	
国 26者	県 6者
国 30者	県 2者

配置予定技術者の
施工能力 工事成績
県の評価最も多い

○ より品質に寄与するため有意な差がつく技術提案テーマの設定や評価により、優れた技術が評価され、技術評価で1位が1者となるよう努めている。

技術提案同点1位の会社数 (R4~R6 WTO)



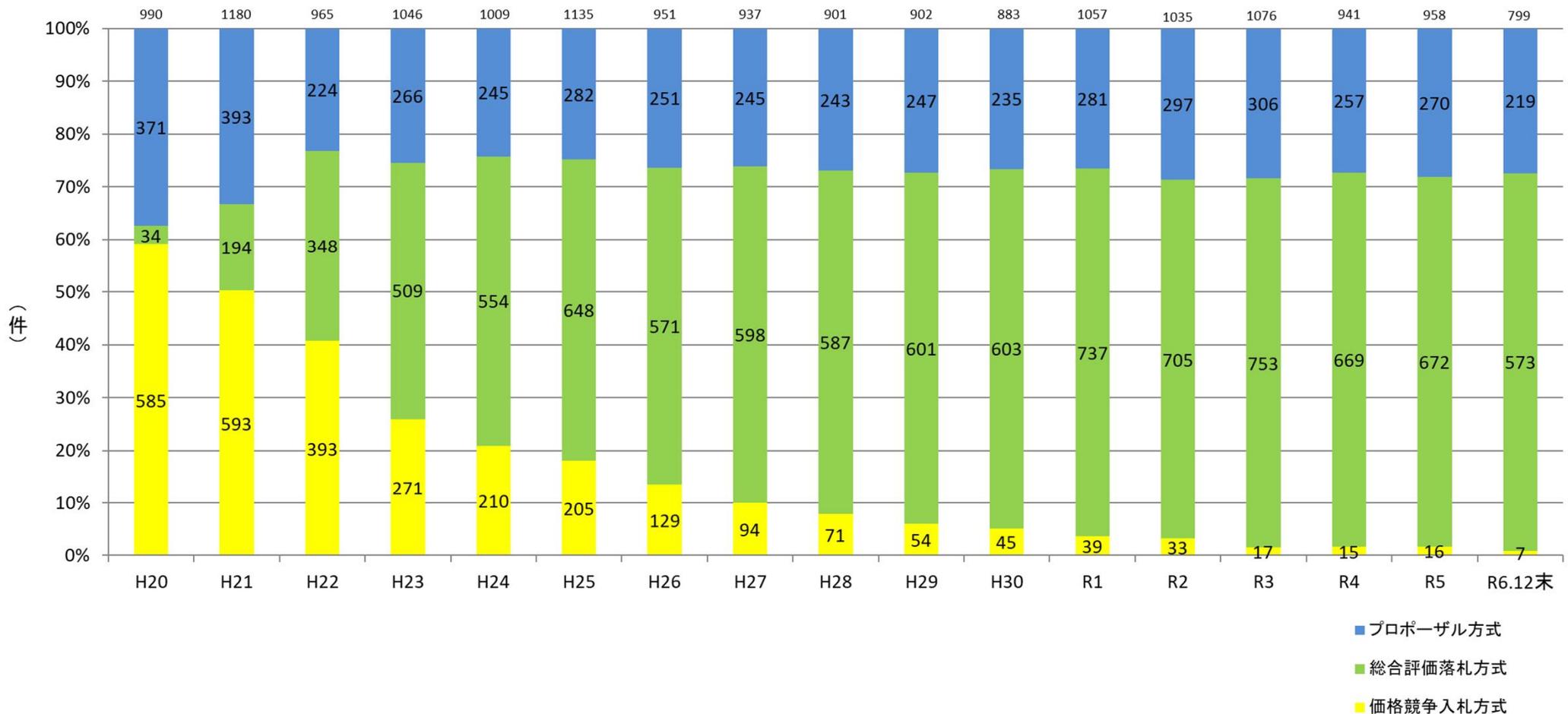
公共工事に関する調査及び設計に関する入札に係る総合評価落札方式の実施について (H20.5.9)

運用ガイドラインの一部見直しに向けた試行 (H26.6.16～H27.11.24)

運用ガイドライン (H21.4.20)
手持ち業務量の制限導入 (H21.10.13～)

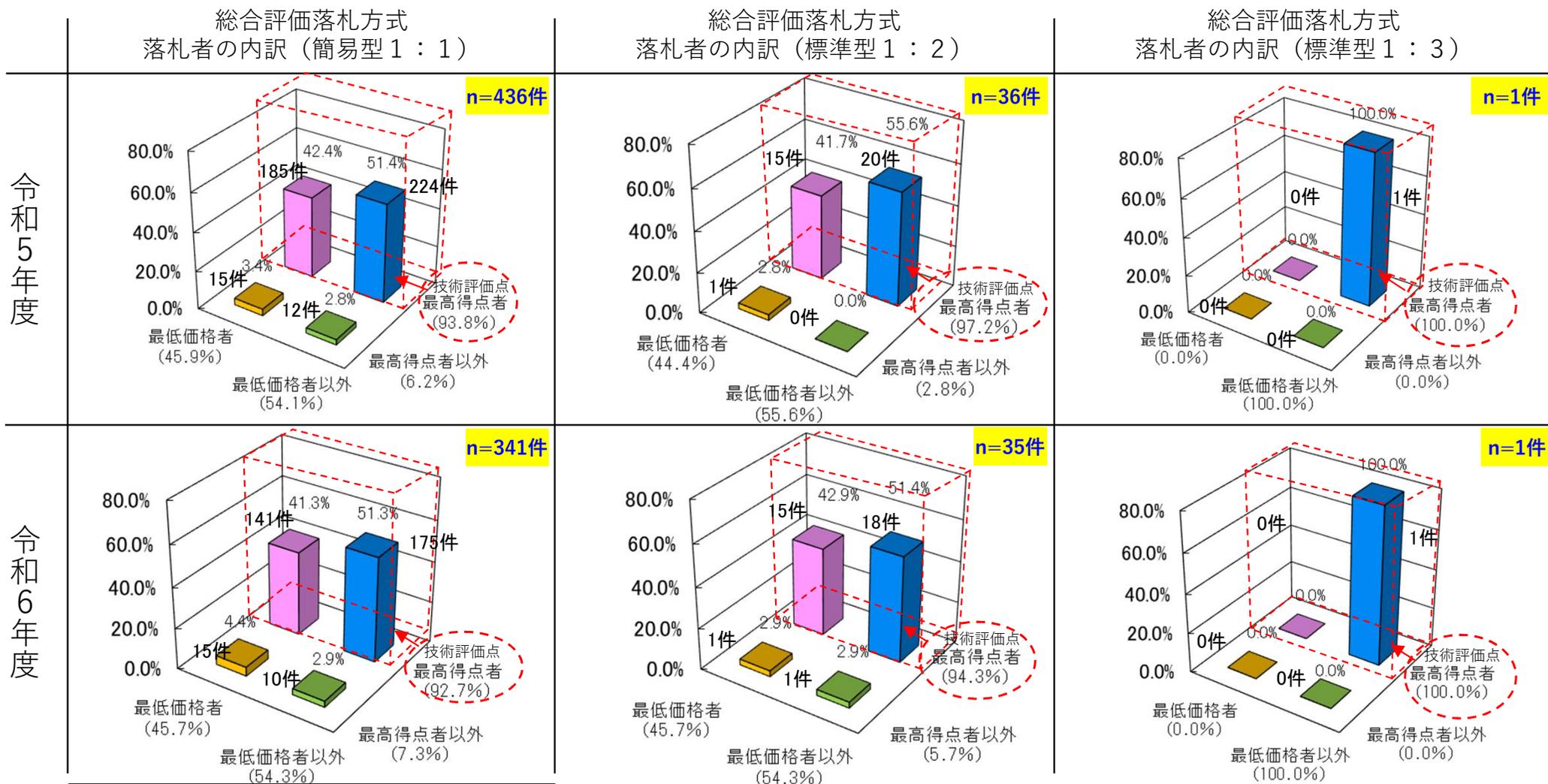
履行確実性評価の導入 (H22.5.24～)

運用ガイドラインの改正 (H27.11.24)



※発注者支援業務等(旧市場化テスト対象)、随意契約除く
令和6年度は令和6年12月末契約までの速報値

- 総合評価落札方式では、簡易型、標準型とも、落札者の約9割が技術点の最高得点者。
- 技術点の最高得点者のうち、約5割は最低価格者以外が落札。（技術点による逆転）
- 簡易型、標準型ともに技術力を高く評価された者が落札する傾向。

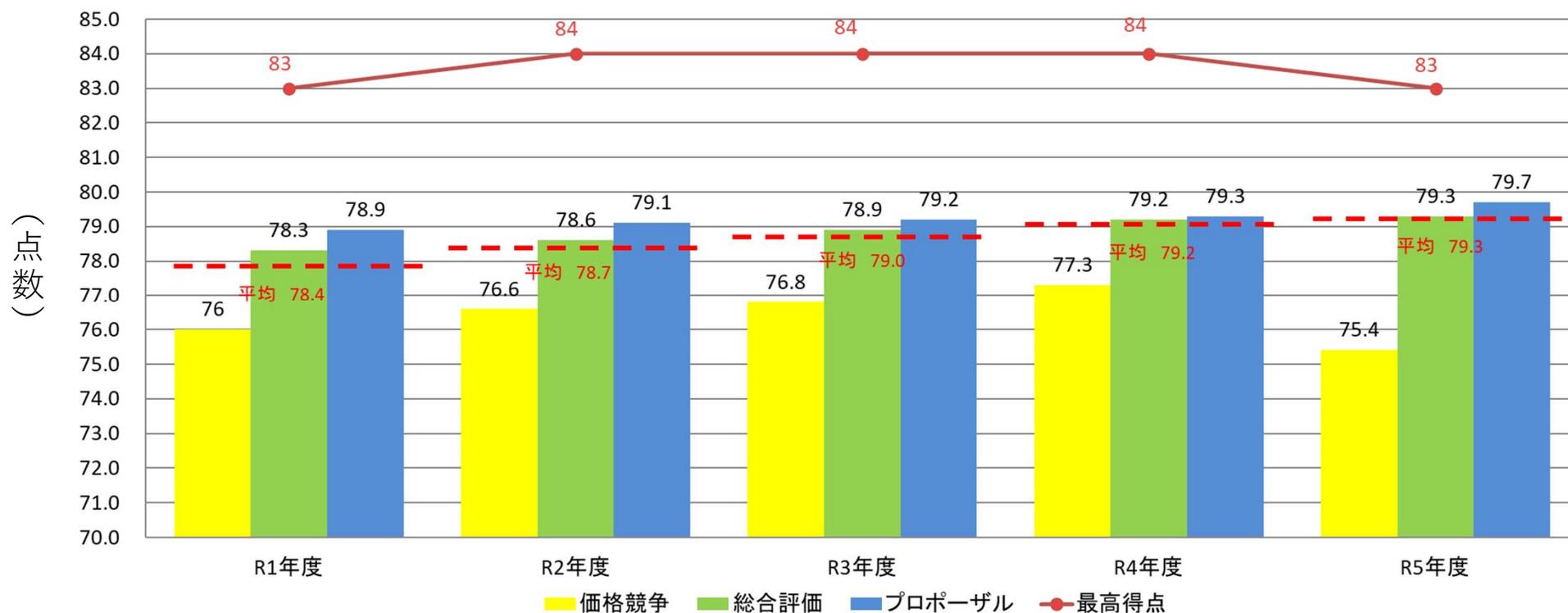


凡例

- 技術評価点が最高で最低価格者
- 技術評価点が最高で最低価格者以外
- 技術評価点が最高以外で最低価格者
- 技術評価点が最高以外で最低価格者以外

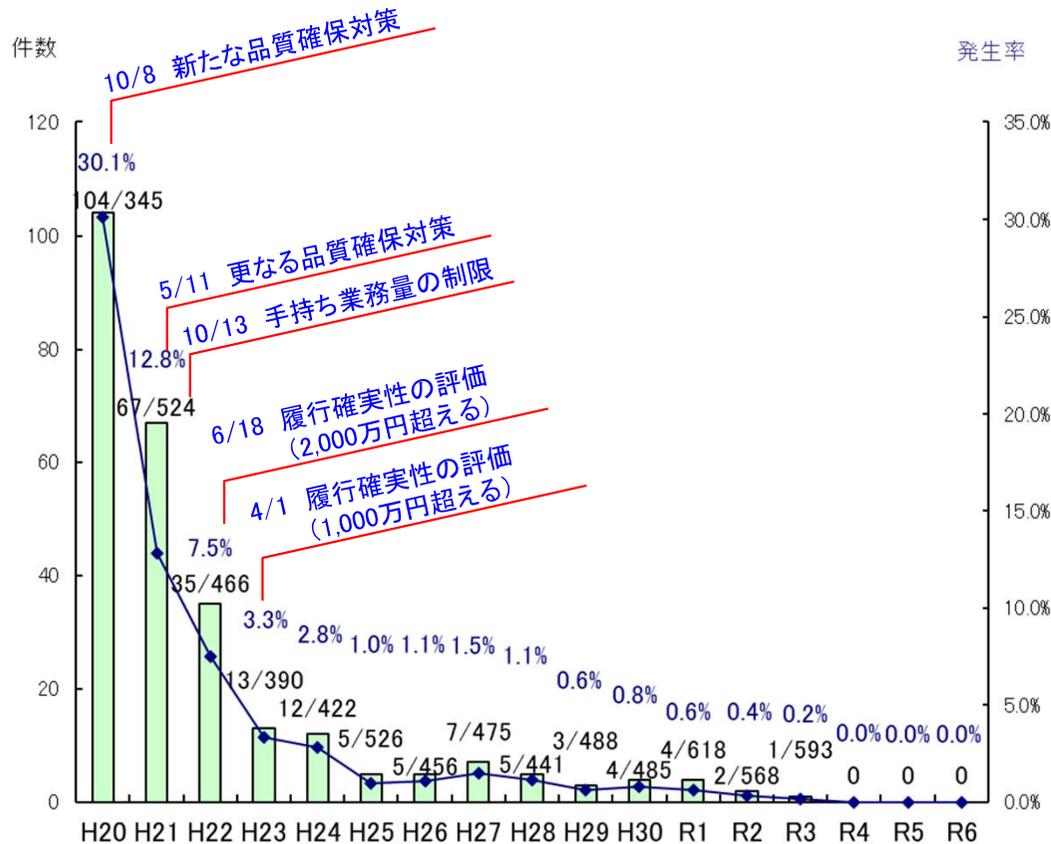
※発注者支援業務等（旧市場化テスト対象）、1社応札業務を除く
 ※令和6年度は令和6年12月末契約までの速報値
 ※四捨五入の関係上、各%と（）書の%は一致しない場合がある

○ プロポーザル方式・総合評価落札方式の採用（増加）により、業務全体の品質が向上。
（業務成績が上昇傾向）

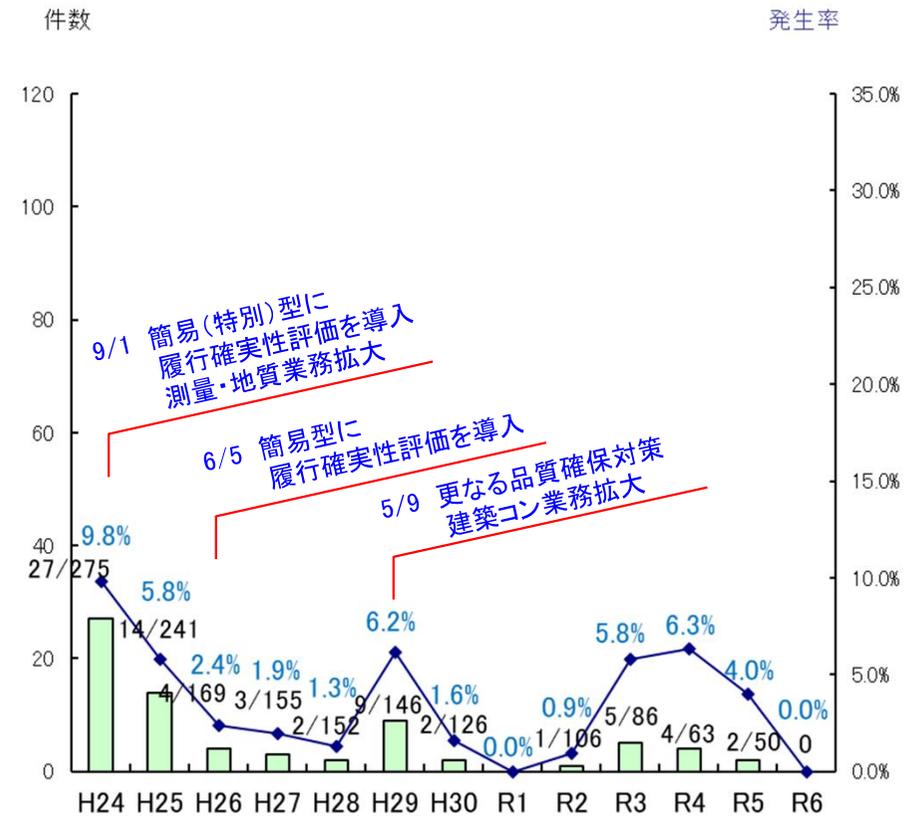


○ 平成25年6月より、1,000万円以下の総合評価（簡易型）に履行確実性の評価を導入。
 その結果、低入札の発生件数・発生率が低下。

1,000万円を超える業務



1,000万円以下の業務



■ 低入札発生件数 ◆ 低入札発生率(低入札発生件数/発注件数)

※令和6年度は、令和6年12月末契約までの速報値。

※発注者支援業務等（旧市場化テスト対象）を除く、港湾空港関係を除く、価格競争、総合評価方式を対象件数として算定。

